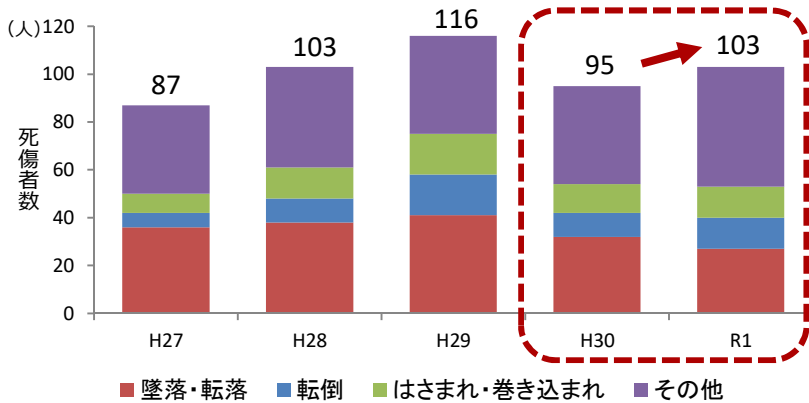


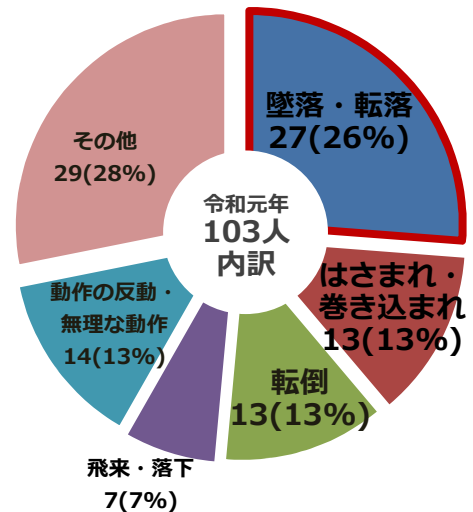
# 新宿労働基準監督署管内における 建設業の労働災害発生状況

(R2.4)

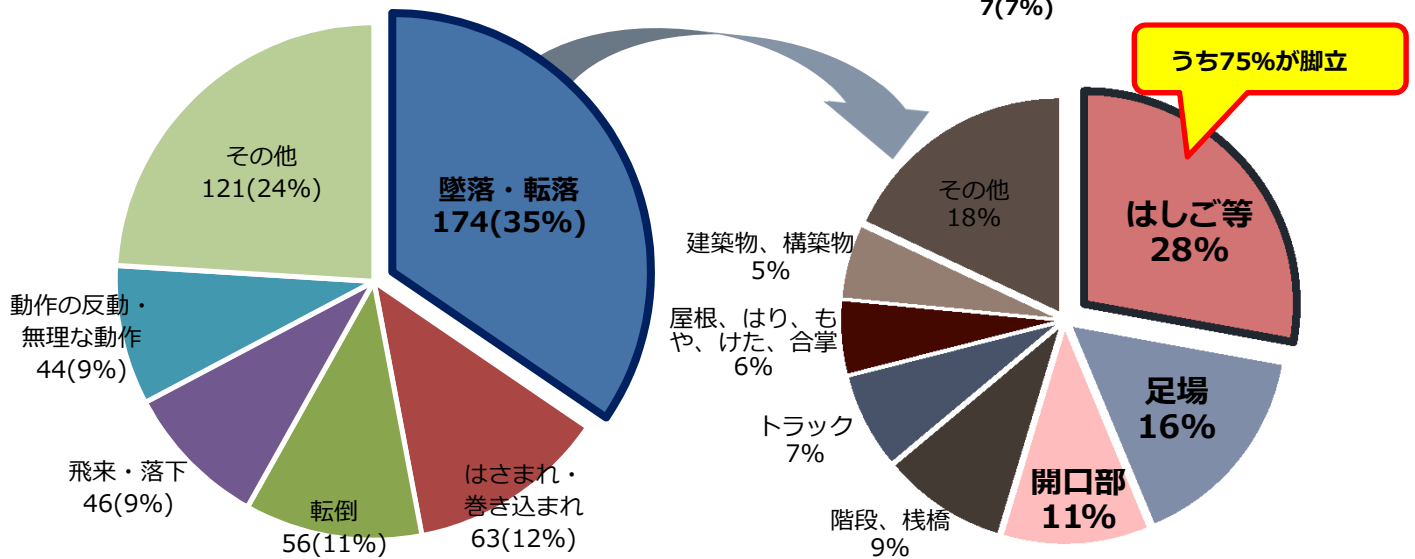
新宿署管内の建設業における休業4日以上死傷者数は、平成21年以降100人前後を繰り返している状況にあります。平成27年～令和元年の5年間における災害は、**全体の35%が「墜落・転落」**であり、そのうち、**はしご等からの墜落が28%、足場からの墜落が16%**を占めています。また、同期間における**死亡者数は9人**で、うち**4人が墜落、3人が飛来・落下**によるものです。令和元年の**死傷者数は前年比8%増加したものの死亡者数は0人**でした。



## 事故の型別の死傷災害発生状況(R1年)



## 事故の型別・起因物別の死傷災害発生状況 (平成27～R1年)



## 建設業における主な死亡災害 (平成28年～ 新宿署)

年	業種	事故の型	起因物	職種	年代	経験年数	災害の概要
28年	建築工事業	墜落、転落	足場	とび工	50歳代	20年～30年	マンションの耐震補強工事で、外部足場の解体作業を行っていた被災者が約22.6メートル下の歩道上に墜落した。
28年	建築工事業	墜落、転落	開口部	大工	70歳代	30年～	木造2階建て住宅新築工事で、建物2階内部の床材となるベニヤ板を貼っていた被災者が、仮置きしていたベニヤ板に乗ったところ、ベニヤ板が床から外れたため、バランスを崩し約2.7メートル下へ墜落した。
30年	建築工事業	墜落、転落	作業床、歩み板	作業者・技能者	70歳代	30年～	被災者は、ビル新築工事における土止め用H鋼の切断作業中、地上1階から地下1階に通じるドライエリア下へ約5メートル墜落した。

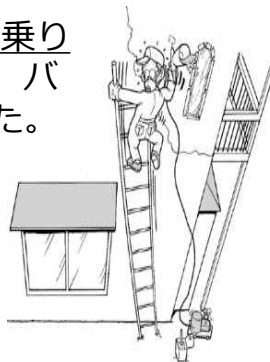
# 典型的な災害発生原因（墜落・転落死亡災害例）

出典：職場のあんぜんサイト（厚生労働省）

## はしご

### No. 1 はしごの上でバランスを崩す

【事例】 はしごから身を乗り出して作業したところ、バランスを崩して墜落した。

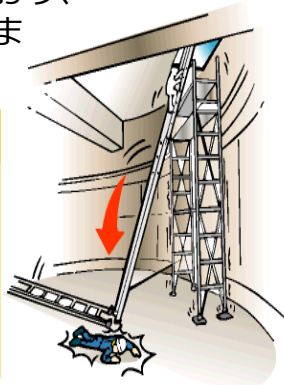


#### ワンポイント対策例

はしごでの作業を選択する前により安全な代替策を検討する。

### No. 2 はしごが転位する

【事例】 はしごを使って降りようとしたところ、はしご脚部下端の滑り止めが剥がれており、はしごが滑ってそのまま墜落した。



#### ワンポイント対策例

はしごの上端または下端をしっかり固定する。  
また、滑り止め箇所の点検を怠らない。

### No. 3 はしごの昇降時に手足が滑る

【事例】 はしごが水で濡れていたため、足元が滑って墜落した。  
(耐滑性の低い靴を使用)



#### ワンポイント対策例

踏み面に滑り止めシールを貼る。  
耐滑性の高い靴（と手袋）を使用する。

## 脚立

### No. 1 脚立の天板に乗りバランスを崩す

【事例】 脚立の天板に乗って作業したところ、バランスを崩して背中から墜落した。



#### ワンポイント対策例

天板での作業は簡単にバランスを崩しやすいので禁止。より安全な代替策を検討する。

### No. 2 脚立にまたがってバランスを崩す

【事例】 脚立をまたいで乗った状態で蛍光灯の交換作業をしていたところ、バランスを崩し階段に墜落した。



#### ワンポイント対策例

作業前に周りに危険箇所がないか確認し、安全な作業方法を考えること。  
なお、脚立にまたがった作業は一旦バランスが崩れたら身体を戻すのが非常に難しい。  
脚立の片側を使って作業すると、3点支持（※）がとりやすい。

### No. 3 荷物を持ちながらバランスを崩す

【事例】 手に荷物を持って脚立を降りようとしたところ、足元がよろけて背中から墜落した。



#### ワンポイント対策例

身体のバランスをしっかり保持するよう、昇降時は荷物を手に持たず、3点支持を守る。

（※）3点支持とは、通常、両手・両足の4点のうち3点により身体を支えることを指すが、身体の重心を脚立にあずける場合も、両足と併せて3点支持になる。